

分数タイル合わせゲーム(特別支援学級用) ルール説明

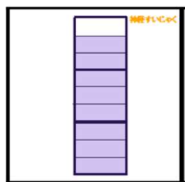
1 神経衰弱ルール

二枚、めくって同じだったら、もらえて、続けてもう一度めくれる。

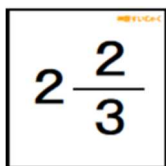


と

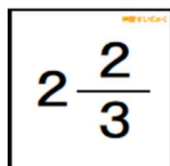
高学年バージョンとして、
帯分数、仮分数でも 同じ大きさならもらえる。



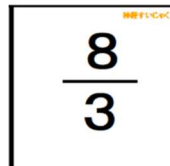
と



または

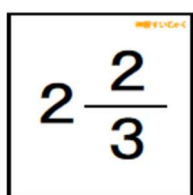


と

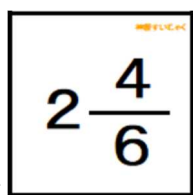


など

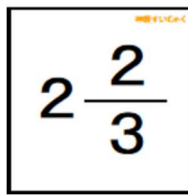
同じカードでなくても、約分、倍分して同じ大きさならもらえる。数字同士、タイル同士でももらえる。



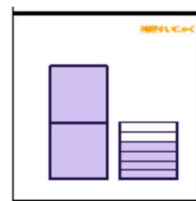
と



または



と



気が付かなければ、次の人が取れる。

2 分数カルタ ルール

読み手一人。他の人は、読み手が呼んだカードを二種類(分数の数詞、タイル)をとる。
初級編(4年)と、上級編(5年・6年)がある。

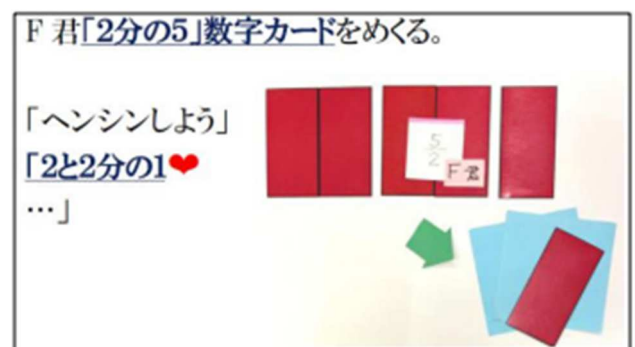
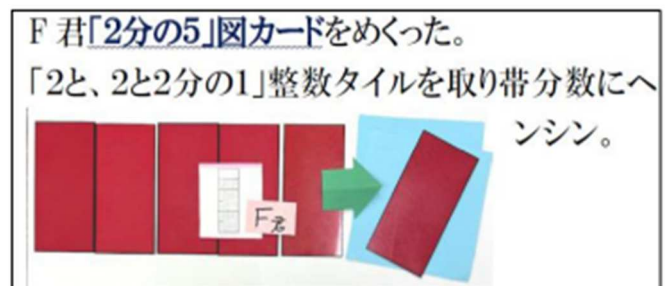
3 分数タイル取り ルール

1. 対象 初級・支援学級など

十分な操作活動を取り入れて 準備物 カード(数字・タイルの同じ量が 4 枚ずつ) 分数タイル(2
バー～5バー) 整数タイル(1)

2. 遊び方

- ① カードを裏返して真ん中に置く。
- ② 順番にカードを引いて、数字でもタイルでも声に出して数詞を言う(読む)。
- ③ 引いたカードの文だけ入れ物からタイルを取り出す(仮分数のカードを引いた時、仮分数でも帯分数でも、自由にタイルを選べる。帯分数カードの時も同様)。
- ④ カードを引いた子が並べるまで他の子は待つ。
- ⑤ 並べたタイルの上に引いたカードを置く。
- ⑥ 続いてカードを引き同様に並べる。
- ⑦ 引いたカードを並べた時、机上に同じ大きさの分数カードがあれば、気づいた子がタイルをもらえる。
- ⑧ 机上にカードがなくなったら終わり。
- ⑨ 手持ちの整数タイルの枚数を数えて、多い者の勝ち。



3. 対象 通常クラス (4・5・6 年)

準備 カード(初級)、カード(上級)

4. 遊び方(4 年)

- ① カードを裏返して真ん中に置く。
- ② 順番にカードを引いて、数字でもタイルでも声に出して数詞を言う。
- ③ 出たカードの数字とタイルが一致したらもらえる(神経衰弱と同じ)。
- ④ 次の人の番の時に、前の人が見落としているカードがあれば、もらえる。
- ⑤ 真ん中のカードが無くなったら終わり。
- ⑥ 取ったカードの数が多い人が勝ち。

高学年(5・6 年)バージョン

- ⑦ 神経衰弱と同じように、帯分数・仮分数、倍分・約分を取ってもよい。

4 6ならべ(7ならべ) ルール 初級編

1. 読み札、真ん中のカードを並べる。

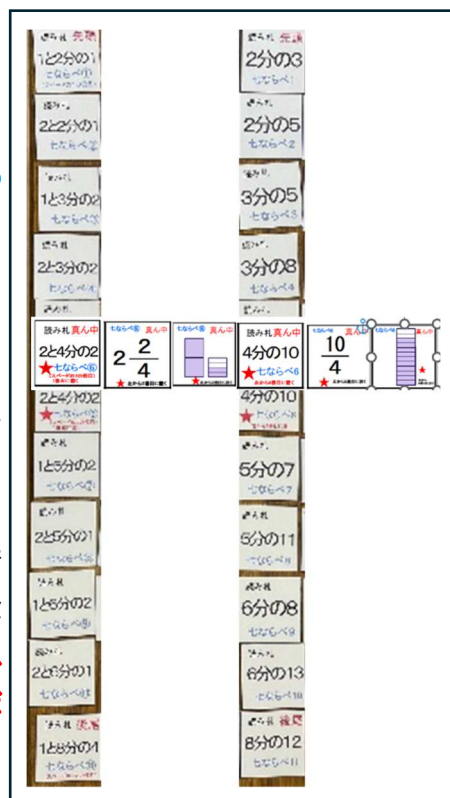
(右図のようにカードを並べる)

読み札と真ん中の札の裏を、マスキングテープで止めて、つなげておくと、すぐに並べられる。

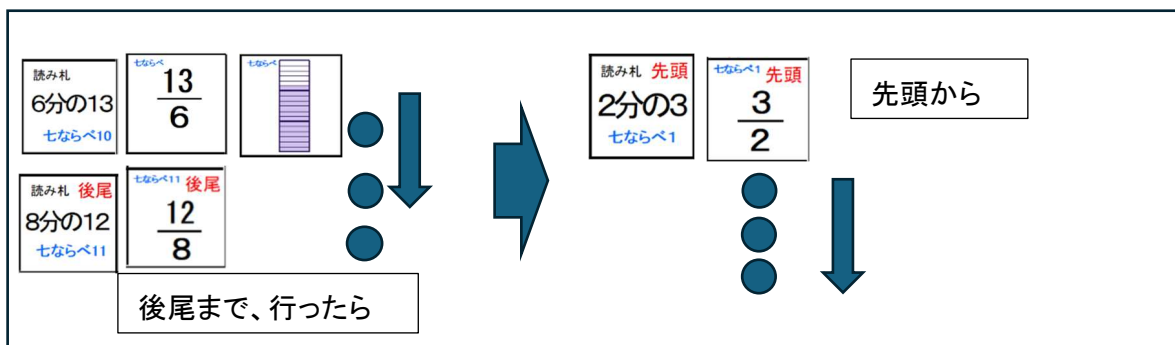
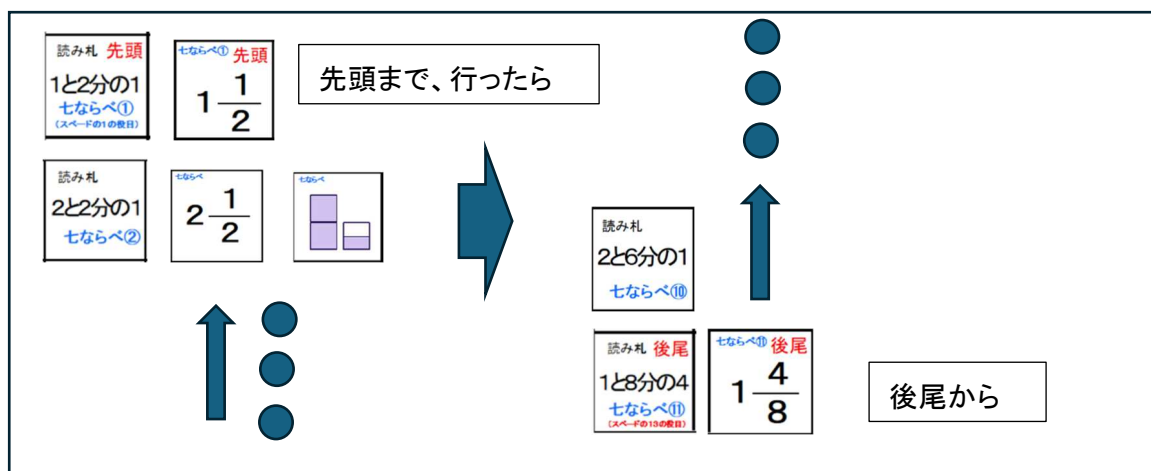
2. 残りのカードをみんなに配る。

3. じゃんけんで、1 番を決め、時計回り。真ん中の両端から、順番にカードを並べていく。(七並べのルール)

4. 置くところがなかったら、パスをする。(パスは何回でもできる、慣れてきたら、一応パスは5回まで。6 回でドボンとなり、持ち札を出して並べる。**出せる札があるのにパスをして、わざと止めるのは、なし。わかった時は違反となり、ドボンとなる**)。



5. 先頭まで行ったら、後尾から。後尾まで行ったら、先頭から始める。(七並べのルール)



6. 手持ちの札が早くなかった人が勝ちとなる。